

「日本をよくしたい」一柳良雄氏の仕事術

日本を世界から尊敬される国にしたい。こうした志を持って変革と挑戦を続けてきた元官僚で一流塾塾長、一柳良雄氏の仕事術に迫った書籍「リーダーよ、アホであれ」（東洋経済新報社）＝写真＝が出版された。退官後に始めた経営者育成や企業コンサルティングでも発揮されてきた理と情を兼ね備えた思考力、現場を重視する行動力、人と人とをつなぐ共感力の源が明かされている。

一柳氏の半生や豊かな人脈を追いかけてながら、日本経済のこ

「リーダーよ、アホであれ」



れからの可能性に思いをはせることができる一冊だ。一柳氏は通商産業省（現経済産業省）入省間もなく宮澤喜一、田中角栄

という2人の大物政治家の大臣秘書を務めた。書籍では2人からかけられた言葉も丹念に再現した。

著者で経済ジャーナリストの片山修氏は「一柳は宮澤、角栄の秘書として、若くして政治のあり方、外交のあり方の本質を垣間見る貴重な機会を得た」と分析する。

「異色の官僚」として省内外から注目されていたエピソードのひとつも披露された。資源エネルギー庁で原子力発電所の建設計画を進めるために地元の調整を担った際、酒席でパンツを脱いで相手を仰天させ、懐に入ってしまったというのだ。片山氏

は「パンツを脱ぐ男の突破力」と評する。退官後は天下りを断って独立した一柳氏。肩書もなく、収入も安定しない時期もあったというが、築いてきた知識や人脈をいかしながら企業コンサルティングやベンチャー支援を進めていった。

本ではミキハウスグループ社長の木村皓一氏や岩谷産業会長兼最高経営責任者（CEO）の牧野明次氏ら今も第一線で活躍する経営者らとの交流を紹介。また、私塾「一流塾」の経験者らの証言も交えて、「日本をよくしたい」という一柳の情熱と志が仲間や後進に伝播（でんぱ）しているさまを描き出した。